

東北ダンプ



【発行】全日本建設交運一般労働組合(略称・建交労)東北ダンプ支部
〒963-8025 郡山市桑野2-3-2

建交労福島ダンプ内

2025年5月1日発行 NO.35

TEL024-933-4511 fax024-921-1868

Email : fukusimadanpu@mtj.biglobe.ne.jp

使用促進闘争奮戦記

～57,000 円を求めて 370 km

今年の使用促進闘争では 57,000 円(税別)を要求しています。3 月からダンプに関わる設計単価も大幅に上がり、本来は 10t ダンプを 8 時間動かせば 82,000 円(税別)支払うことになったからです。57,000 円の根拠は、82,000 円(工事原価)の一手手前にある直接工事費の 90%程度を要求しようという事です。

午前 9 時に仙台の事務所を出発して、まず向かうのは大崎市にある F 工務店です。ここは私とは別の担当者が訪問していましたが、何度行っても門前払いという事で、顔を変えて訪問することにしました。「社長は居るか」と聞いたら「出かけて留守」との事で「代わりの者を出してくれ」と言って、総務担当らしい男性社員が出て来ました。「社長から必ず電話を寄こすように」と言って終わりました。

次に向かうのは北上川下流河川事務所です。昼食は航空自衛隊松島基地の目の前にある笠松ドライブインで食べましたが、以前と違ってご飯の盛りが少なくなっていました。値段は一緒なので、ここでもコメの値上げに苦労しているなど感じました。

14:30 から K 副所長と懇談、私からの急なアポだったので、30 分の時間は割り切って説明し、役所の見解を求めました。4 月に前任者と交代した副所長ですが、「本省から新しい連絡文書が来るまでは、昨年度の連絡文書で請負者を指導せよ」と整備局から言われている。技術副所長や主任監督員には趣旨を徹底している」との回答があり、森谷からは「主任監督員を集めた席で、森谷からの説明を聞く機会を作ってほしい」と要請して終わりました。めずらしく、気さくな人柄の副所長だと思いました。

16:00 からは石巻で抵抗勢力のひとつである T 興業です。ここは 2 年前から通っていても、まだ 1 台も優先使用措置を取っていない業者です。息子が社長で、父親は建設協会の専務理事で、昨年は叙勲も受けています。S 土木部長と交渉に入りましたが、いつもの様に「自社ダンプがある」「社員の家族がダンプを持っている。足りない時に建交労に声をかける」の一点張りです。

大手ゼネコンの対応なども含めて 1 時間話し合い、最後に「社長と合わせてくれ」と言って終わりました。(後日、連絡があり、5/15 に社長と会うことになりました)

19:00 に仙台事務所に到着。一人での食事はつまらないので、行きつけの居酒屋でビールと水割りをあおりました。ここは居酒屋でもカラオケがあり、J ポップを歌う若い客が少ないので、私の年齢には打って付けです。すでに年金暮らしとおぼしき 3 人組がマイクを握っていました。

翌日は 10:00 から五洋建設東北支店です。駐車場探しに一苦労した後、H 土木部長と交渉を始めましたが、内容は呑める条件ではありません。単価が 41,000 円なら使えるという事です。「57,000 円はトランプ大統領に脅かされても譲れな

い」と頑張り、話は平行線のままでした。感想としては、「優先使用措置」について殆ど理解がないんだと思いました。元々、25 万 m³の土砂運搬ですから、二つ返事はないと覚悟していました。(後日、発注者であるネクスコ東日本東北支社の建設課長を訪ねて、元請に対する指導徹底を求めています。連休明けに様子を聞きます)

二日間の日程を終え、仙台市を後にしました。13:00、福島松川 PA で天井を食いました。「まるまつ」の直営だと思いますが、この天井は美味しい。私は油っぽいのが好きで、それが仇になり、胆石で腹を切ったこともあります。ナビを見ながら、二日間で走った距離は 370 kmでしたが、71 歳の私には少きついような感じもしました。それでも掲げた目標はやり切らないと、建交労全国ダンプ部会の看板に申し訳ないという思いで頑張ります。(M)



トラックダンプデモ実施

秋田県本部は、4月20日(日)県立総合プール第2駐車場で、トラック7台、ダンプカー3台、組合員16人が参加して、第25回トラック・ダンプデモの集会を行い、秋田駅までの往復1時間の距離をデモ行進しました。建交労が優先使用措置を取られる団体であること、交通安全には単価の引き上げが重要であることなどを宣伝カーから訴えていきました。

当日は朝からの雨で大変でしたが、出発集会では秋田県本部の佐藤執行委員長が主催者あいさつをおこない、県労連の伊藤ひろ事務局長、日本共産党の加賀屋千鶴子県議会議員から来賓あいさつをいただきました。

続いて決意表明を秋田運送支部の高階義昭さんと東北ダンプ支部秋田分会の加藤文秋さんがおこない、集会決議を採択しました。

地元紙の秋田魁新報(4月26日付に掲載)としんぶん赤旗が取材に来ました。



晴釣雨読(せいちょううどく)

東北の渓流釣りも本番を迎え、皆さん入念に釣行計画を立てているでしょう。近年話題になっている野生動物の出現には、本格的な対策を講じて入渓すること忘れてはならない。野生動物と人間の生活圏の区別がなくなってきたことが大きな要因で、人間社会と野生生物の境界が失われたことで熊の被害が続出している。また、専門家の諸説によれば地球温暖化の影響で、眠らない熊を作ったことも大きな要因と分析している。命に関わる事なので万全で臨んでほしい▼山奥の溪流釣りに「ゾクゾク」とする奇怪な出来事か、意図しない時ほど起こるものである。遙か昔にあった事で想像を絶する不思議な体験であったが、読む方々に伝わるように説明できるかわからないが紹介しようと思う▼その溪流は年に2度、春と秋に相棒と2人で訪れる溪谷で、ニコウ岩魚だけの生息域で特徴は、淡いピンク色を帯びた身の魚で、甘みがとても強く刺身で食べると絶品だ!▼八甲田連峰に属し、V字溪谷で天空が覗ける隙間が無いほどのブナ原生林に囲まれた溪谷である▼林道を小一時間走らせ、林道から溪流まで徒歩で1時間ほど下り、川渚の天場に到着しいつもながら一服する。休憩後登山着姿から釣りスタイルに変身して、更に川沿いに30分ほど下った地点が、釣り開始地点となり、釣りは上流へ上がりながら竿を振り込む▼釣り上がってから小一時間が経過し一息つき、相棒と今回の溪流の状況や釣行過程の意見交換をして続行するかどうかの判断を確認する▼納棺を決め帰りの道順を確認し、溪流を登り、天場へ、更に尾根の林道へ進むことになる▼溪谷から林道に戻る途中に「ゾクゾク」とする奇怪な出来事に遭遇するとは思ってもせずに帰路に向かう2人の前に何が起るのか。この続きは字数が多いので機会をみて投稿する。

高橋溪峰



春闘 団体交渉へ向けての班会議

ハイウェイ班の仲間は、東北地方の高速道路の維持修繕(メンテナンス)をしている会社に所属しています。この間、物価高騰により実質賃金は目減りしているため、仲間の生活はひっ迫しています。毎年春闘を闘っていますが、なかなか思うような回答を引き出せていません。

粘り強く団体交渉をおこない要求を勝ち取り、組織拡大につなげたいと4月21日午後6時から福島分会事務所で話し合いをしました。

建交労共済会 **2024年度**

拡大キャンペーン

いざ！に備えよう

◆ 一例 ◆

組織共済に継続して加入する組織に
→ 純増人数×1,000円

個人セット共済に新規加入
→ 個人に5,000円分の商品券
プラス組織に5,000円

詳しくは【建交労共済会】へ
☎ 03-3360-8021



青森でも使用促進をすすめよう

東北ダンプ支部が広域化に伴い、東北全体で使用促進に取り組んでいます。青森県は、組合員が少ない地域ではありますが、東北でもダンプ地場単価は低い状況です。そんな状況を打破するために2023年から青森県で使用促進闘争を進めてきました。

2023年当初は、指導事項に記載されていながらも指導事項を守らない業者が大半でした。青森県での公共工事は、青森県内の業者主導と感じえない対応です。

今年、4月18日に青森県弘前市にあるM建設とM組との交渉を行っています。M建設は、協力業者を使うこと・会社も大変ですとの回答を繰り返すだけとなっています。指導事項はもらえないとは言わないが、協力業者であふれた部分を使用するなど指導事項・ダンプ規制法の主旨を無視する対応を繰り返しています。青森河川国道事務所から度重なる指導でも無視する青森県の建設業界の異常さは公共工事を受注している業者とは思えないものです。

1時間の交渉では、会社から断る回答を準備しているM建設は対応を変えることはしませんでした。

M組では、総務課が組合の話をよく聞きますが、白ナンバーダンプを使用する事はダメという凝り固まった考えは、根が深いと感じています。また、M組では、下請けに一括で契約するわけではなく、警備会社や運搬業務に関しても元請けとして契約をするという事でした。そのことで安全安心が担保されているとの事でした。

余談ではありますが、M組の応接室では、東京オリンピック聖火が飾られておりM組の社長が聖火を持って走ったとの事でした。トーチは、10万欠ける程度の金額で購入可能との事でした。

地方の建設業界の認識は、組合の運動と連動しています。組合の運動が弱ければ、白ナンバーは違法。社会保険の強制加入などダンプの特殊性を理解させることは困難です。引き続き東北全体で車持ちダンプ労働者の地位単価改善を求め奮闘していきます

第32回全国ダンプキャラバン東北行動

毎年6～7月に国交省河川国道事務所や県などの工事発注者、県警などに交通安全の実現、単価の引き上げ、ダンプ規制法の制定趣旨及び目的達成にむけて、使用促進措置が個別の工事で実施されるよう要請する全国ダンプキャラバン東北行動が実施されます。

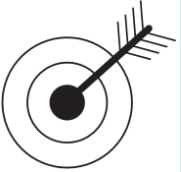
東北では以下の日程で実施されます。

- 6月23日(月)福島県、山形県
- 24日(火)宮城県
- 25日(水)岩手県
- 26日(木)秋田県
- 27日(金)青森県

フットコロが
話と
どこの
温暖化



鳥海山 元滝伏流水（秋田県にかほ市）



時の的

飯田光徳 社会福祉法人「野の花福祉会」

コメの価格高騰が止まらない。農林水産省は全国のコメの平均価格をまとめ、毎週公表するが、25年3月17日から23日までの1週間の平均価格は、5キロ税込みで4197円。前の週より25円上昇し、12週連続の値上がりとなった。前年の同時期は2041円。2倍を超える高値だ。身近でも、ランチのお替り無料はほぼほぼなくなった。大好きな海鮮丼はメニューから外された。コメ好きには住みにくい世の中だ。

さらに日本酒造りにも影響が出ている。主食用米の価格が酒米を上回り、酒米の生産をやめて、利幅の大きい主食用米に切り替える農家が出ているためだ。25年産の酒米の確保が難しいとして、減産や生産見合わせも視野に入れる酒造会社が出てきた。

酒造会社社長はこう語る「量が確保できないのが一判問題なので日本酒の生産量が見通せない。去年の倍という価格も出ているので高いコメをととても買えない。主原料のコメがものすごい値段になってしまえば、来年は日本酒ファンには非常に申し訳ないが価格を上げざるを得ない」と…。

異常高温、カメムシ被害、そして政府の減反政策がコメ不足、高騰を招いている。いま、コメ政策の抜本的転換が求められる。需給と価格の安定に責任をもち、ゆとりある需給見通しで生産と備蓄を拡大すべきだ。日本酒値上げは辛いぞ！